神戸大学グリークラブ
平成 28 年度　　会報

神戸大学グリークラブ
神戸市灘区六甲台町 1-1

目次

ご挨拶	グリークラブ顧問	阪上　公博	・・・・・1
	グリークラブ部長	江崎　祐介	・・・・・3
	正指揮者	沖出　賢祐	・・・・・4
	OB 担当	中尾　航一	・・・・・5

OB 様方からの寄稿文

新 OB 代表	逢坂　唯	・・・・・6
『市会議員 4 年間の経験を経て』	徳重　光彦	・・・・・8
『留学生事情と就労状況について』	永井　哲郎	・・・・・11
『第 6 回定期演奏会盛会裡に終了!』	竹内　克広	・・・・・13
『横山さんのご逝去を悼む』	竹本　鉄三	・・・・・15
『グリークラブ関東 OB 会の報告』	静川　靖敏	・・・・・17

訃報	・・・・・18
現役活動報告	・・・・・19
2015 年度　会計報告	・・・・・21
寄付金の振込先・住所変更、お問い合わせについて	・・・・・22

ごあいさつ

神戸大学グリークラブ顧問・技術顧問
阪上　公博（工学部教授）

平素は神戸大学グリークラブの活動をご支援いただき，誠にありがとうございます．

今年も，例年に従いまして「会報」をお届けいたします．毎年申し上げておりますのでご承知とは存じますが，大学当局の指示や OB 諸氏からのご意見など諸事情から名簿を廃止し，3 年前から活動の報告や現役および OB からのご寄稿をもとに，会報的なものとして小紙を発行しております．小さなことではありますが，これを通して現役の活動を遠方にお住いの OB 各位に知っていただくだけでなく，現役・OB 間の交流・情報交換の活性化の一助となることが最終的な狙いであります．まずは，顧問・技術顧問として，ごあいさつに代えて近況をご報告申し上げる次第ですが，演奏活動などの詳細な活動報告は別項に譲ることとして，私からはグリークラブの状況および，周辺の状況として大学の事情も合わせてお知らせしたいと存じます．

１．昨年度の演奏活動について

昨年度は，ジョイントコンサート，定期演奏会ともに盛会のうちに終えることができ，みなさまのご協力の賜物と，まずは厚くお礼申し上げます．特に定期演奏会では，これまでにあまり取り組むことのなかった現代的な作風のものを取り上げるなど，学生指揮者のステージでも意欲的な取り組みが見られたのは，私としては良い変化と考えております．一方では，そうした難易度の高い現代作品に取り組むには十分な基礎的実力が備わっていないことも，OB のみなさまからご指摘をいただきました．この点は真摯に受け止め，反省点としたいと思っておりますが，まずは学生諸君の自発的なチャレンジを，私としては評価し，またボイストレーナの先生方と共に技術面でバックアップするよう努めてまいりたいと思います．本年度も，学生諸君はかなりチャレンジングな曲を選んでいます．基礎の充実も大事とは思いますが，学生諸君が新しい音を求めるチャレンジを始めたことは評価したいと思います．まだまだ基礎的な面の弱さがありますが，バックアップしていきたいと思います．

なお，昨年お伝えしましたように，近年の大学合唱の状況からジョイントコンサートを組むことが難しい状況となっており，本年度はジョイントコンサートの開催を断念せざるを得ませんでした．これに代えて，6 月 25 日（土）に六甲台講堂でサマーコンサートを開催します．六甲台講堂は文化財指定を受けてから練習には使えなくなり，めったに使うことができなくなりましたが，お近くの方はこの機会に新装なった講堂へお運びください．また，7 月には阪急六甲駅付近の「神戸雲内教会」でミニコンサートを行います．これは地域活動の一環としてはじめ今年で 3 年目になります．ご承知の通り，

主力の 4 年生が抜けた前期ではありますが, 精一杯の演奏をしてくれることと期待いたしております.

２．教育改革および就職協定の変更に伴う状況の変化

このことは昨年もご報告いたしましたが, 昨年度大幅に変更された就職協定が再度変更されました. 昨年よりも早くなったとはいうものの，一昨年までに比べますと，やはり全体に遅くまで就職活動が続き長期化する傾向が本年度も見られております. これに伴い，学生諸君の進路選択にかかる状況も大きく変化しております. 一方，当団のような課外活動においても, 最高学年であり活動の核である 4 年生が前期は就職活動のためあまり活躍できないという状況になってきております. そのため，昨年度より前期の活動においては，3 年生の副指揮者が中心となり，4 年生は運営面でも技術面でも可能な限りサポートするという体制となっております. この状況は今後も続くものと思われます. 一方，4 学期制の導入により 6 月上旬に試験期間が入るなど，学生生活にも大きな変化が現れ, 部活動にも制約が出てきております. 今後, いろいろな問題点を整理して，よりよい運営方法や活動の仕方を検討していきたいとは存じますが，当面は不慣れな 3 年生以下が中心の運営で，OB のみなさまにも多々ご迷惑をおかけすることもあろうかと存じます. どうぞ，みなさまのご指導とご援助をいただきながら充実した活動ができますよう，一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げる次第です.

以上，グリークラブの活動をとりまく周辺状況をご報告申し上げました. どうぞ，今後とも現役の活動をあたたかく見守っていただき，ご支援ご声援いただきますよう，改めてお願い申し上げます.

神戸大学グリークラブ部長
経済学部　4 回生　江崎祐介

OB の皆様方はじめまして、私は現在部長を務めております経済学部 4 年生の江﨑祐介と申します。OB の皆様には、平素より神戸大学グリークラブの活動をご支援いただき、誠にありがとうございます。部員を代表いたしまして深く感謝申し上げます。

現在グリークラブでは、今年度入りました 1 年生 6 名を加えまして、29 名で活動をしております。しかしながら、今年度より神戸大学では 4 学期制が導入され、前期、後期のちょうど真ん中にも期末テスト期間が設定されるなどして、従来通りの練習計画を組むことが難しい状況であります。また、就職活動の方も昨年とは違い、3 月開始の、6 月より内々定の決定という形に変更され、就職活動を行う 4 年生は前期の間、就職活動と両立させながらの部活動参加という状況でありました。私自身も 3 月、4 月は説明会、5 月、6 月は筆記試験、採用面接が入り、遅れて練習に参加する日もしばしばあり、後輩に苦労をかけることも多くありました。このような状況ながらも運営陣の 3 年生を中心として、工夫をしながら 12 月の定期演奏会に向けて日々、練習に励んでおります。

私はもともと歌うことがあまり好きではありませんでした。音程を合わせることもできなければ、リズムをとることも苦手で、小中学生のころは友人からカラオケに誘われてもよく断っておりました。また、高校を中退したこともあって私と同じ年代くらいの人と話す機会もなくなり、消極的な性格も相まってそもそも話す、声を出すことがほとんどない時期もありました。大学でもそのような生活が続くのかと思っておりましたが、グリークラブに入って少しだけ変わることができたのではないかと思います。歌うことへの苦手意識が無くなったこと、自分の低い声を誇らしく思うようになったこと、一人でもカラオケに足繁く通うようになったこともあります。しかしながら、それ以上に、こんな私でも受け入れてくださった先輩、後輩、同期の仲間、下手な私でも丁寧に教えてくださったボイトレの先生方、顧問の阪上先生、私たちの活動を支援していただいた OB 様方、そうした様々な人と接する中で気持ちが前向き、プラス思考になったと感じております。エントリーシートを書く際にも非常に役立ちました。

12 月の定期演奏会はまだまだ先の話、と思っておりますがきっと、あっという間に本番の日を迎えてしまうのでしょう。後悔しないように今できること、後輩たちと遊ぶことは精一杯頑張ろうと思っております。もちろん、練習に一生懸命励むことが前提です。定期演奏会で悔いのない演奏ができるように精進してまいります。最後になりましたが、OB の皆様方には今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

神戸大学グリークラブ正指揮者

経済学部　4 回生　沖出賢祐

はじめまして、神戸大学グリークラブ正指揮者の沖出賢祐です。

OB 様方にはいつも我が団をご支援いただき、部員一同大変感謝しております。神戸大学グリークラブは、昨年度 6 名の 4 回生の方々が卒団され、今年 6 名の部員が入部し、現在は 29 人で活動を行っています。4 回生の方々が抜けた穴を埋めるのは非常に困難であり、我々は日々精進しておりますが、合唱面において、至らない部分もたくさんあるかと思います。

去年の会報にて、卒団された昨年度正指揮者の逢坂さんも触れていましたが、我が団は合唱経験が大学に入るまで全くなかった者が大半を占めており、音楽経験があった者ですら少数しかいません。「歌いたい！」という気持ちでこの部に入った部員も決して多くはありません。なかには入部当初、練習しても正しい音程で歌うことができない部員も、数名ですがおりました。しかし、そういう中でも、日々練習を重ね、1 回生の頃にはできなかったことを 2 回生、3 回生、4 回生と回生が上がっていく中で出来るようになっていった部員たちの姿を見てきた私にとって、今年から務める正指揮者というポジションは、重く責任を感じるポジションであります。この部に入るまで、音楽経験がほとんどなかった私ですが、部員たちのやる気を引き上げ、部員たちの合唱レベルを上げるために、楽しくかつ厳しく、これからも練習指導を日々頑張っていこうと思っています。

過去の神戸大学グリークラブは、部員数も多く、合唱のレベルも非常に高かったことは過去の演奏会の CD や MD を通して私もよく知っておりますが、OB 様方には、温かい目で我が団のこれからのコンサートを見守っていただければ嬉しいです。元々は歌うことが苦手だった部員や、合唱の歌い方が分からなかった部員の進歩を、演奏会を通して感じていただけるように部員一同精一杯努力していきます。

私は今年 4 回生になり、この部に所属してもう 3 年が過ぎましたが、この部の最大の長所は結束力なのではないかと思っています。29 名という決して少なくない部員数でありながら、パートや回生を越えて、趣味や性格が合うかどうかにかかわらず、部室や練習場所でたくさん話し合い、これほどお互いについて深く知りあえる部は、他にはないと思っています。私の、この部での活動は残り半年ほどとなりましたが、先輩方が引き継いできたこの楽しい空気を、後輩たちにさらに大きなものにして引き継げるように、合唱の練習においても、合宿やその他の練習以外の活動においても、これからも、自分自身楽しみながらたくさん伝えていきたいと思っています。

最後になりましたが、OB の皆さま方には、今後も変わらぬご支援、ご教授をよろしくお願い申し上げます。

神戸大学グリークラブ OB 担当
工学部　3 回生　中尾航一

この度は、神戸大学グリークラブの会報をご覧頂き誠にありがとうございます。名簿を廃止して代わりに発行しておりますこの会報ですが、OB 様方のご支援の下、今年で 3 年目の発行となりました。OB 様方にとって恒例のものとなっておりましたら嬉しい限りです。私は、OB 担当というような責任のある仕事を今まであまりしたことがなく、探り探りで仕事に励んでいる次第であります。OB の皆様方と接していると、こちらが慣れていないところを、助けて頂いていると強く感じます。その上で、この会報で現役の部員と OB 様方の交流になるだけではなく、OB 様方同士の交流の場にもなれば良いと思っております。

私は、グリークラブに入るまで音楽に関わったことがほとんどなく、入ったばかりの頃は歌うことや合唱に関して正直な所、よく分かりませんでした。しかし、諸先輩方のご指導の下、練習をするにつれて初めた頃に比べると少しは上達しているのではないかと思います。今では、3 回生という先輩の立場になりましたが、頼りになる後輩が多く私が助けられたりもしており、やはり今までの先輩方には及ばないと自分の力不足を感じています。それでも、私が教えて頂いたことを少しでも伝えられたらと思い、また私自身も少しでも諸先輩方に近づこうと日々練習に励んでいる次第であります。

私は現在、工学部の機械工学科の 3 回生なのですが、4 回生になると研究室に配属され、卒業研究をすることなるので練習に十分参加できない可能性があります。そのため、グリークラブの活動を満喫できるのは今年いっぱいになるかもしれないと思いつつ、1 回 1 回の練習に取り組んでおります。さらに、合唱以外の面でも後輩や先輩方と共に遊んだり、ご飯を食べに行ったりと楽しい時間を過ごさせて頂いております。

このような活動が出来ますのも、グリークラブの現役生の仲間とそれを支えて頂いております OB 様方のおかげであります。また、この会報を作成するにあたりましてご協力を頂いた我が団の顧問の阪上先生を始め、OB の永井様、徳重様、團野様、静川様、竹本様、竹内様にもこの場をお借りしまして御礼申し上げます。これからも御支援、並びに御指導、御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

新 OB 様代表

私が現役であった頃、学生指揮の先輩はお二人いらっしゃいましたが、翌々考えてみると四年で大学を卒業したのは私だけではないかと思うのです。ですからこの場で昨年まで所属していた者が仕事について書くのは、なかなか久しぶりのような気がします。

平成二十八年三月に神戸大学発達科学部を卒業し、現在は岡山に本社を置く運輸企業で働いております、逢坂 唯（おおさか ただし）です。

新社会人として世に出て三ヶ月が経とうとしているが、こういう仕事をするようになるとは四月の私は想像していなかったでしょう。どういう仕事かは差し控えるにしても、仮にも神戸大学という旧帝大に並ぶ研究機関の出身であります。その私が空港のカウンター裏で貨物業務に携わり、晴れの国と呼ばれるだけある眩しさの下で汗を流すとは考えもしておりませんでした。

ちなみに私の本来の所属は旅客部門であり、皆さんが一般にイメージされる空港職員というものであると思います。搭乗券の発行や搭乗案内、空港内保安業務等が普段の業務であります。しかし意外だったのは、こうした環境に抵抗を感じていない自分がいることであります。私自身は旅客部門の所属であり、現在は研修の為に旅客業務と貨物ハンドリングを相互に行き来しております。男性中心の貨物ハンドリングに携わる職場の雰囲気がまさしくグリーのそれに似通っている点であることは抵抗感排除の一因だと言えますが、やはり身体を動かす仕事というのは良いものです。余計なことを考えなくて済むからであります。正しくは考えている暇などないというべきでしょうが…。

貨物ハンドリングは、フォーミュラワン（F1）のピットイン作業と似たものだと言えます。もし航空機を利用する機会があればぜひ窓の外を観察してください。何百人の旅客を一度に輸送する巨大なシップは実は非常に繊細で、例えば受託手荷物をまとめたコンテナ（我々は ULD と呼ぶ）はハイリフトと呼ばれる車両で地上から機内貨物室へ搭載される際、コンテナを送る位置が数センチずれるだけで機体に接触しダメージを与える恐れがあります。機体へのダメージは安全確認のための作業工程のズレ、つまりは出発遅延に繋がる為、あんなに大きなコンテナや車両ですが、担当者には寸分違わぬ業務が求められているのであります。

ハンドリング業務は航空機の到着から離陸まで、全ての作業が分単位で定められ、一つの遅れが定時出発の阻害、そして航空輸送の安全性を脅かす事に繋がります。そして我々には、俗に「トリプル」と呼ばれる B777 や最新型の B787、はたまた LCC で採用される事の多いエアバス社（A320）まで、空港へ到着する全ての種類の機体に対する知識が求められています。さらに当空港で面白いのは、国内大手二社である全日空（ANA）と日本航空（JAL）の両社の地上ハンドリングを担当している点であります。通常はこれらのハンドリングはそれぞれ別会社が担当するのだが、岡山空港は国内でも数少ない職場となってい

ます。このため空港内は和気あいあいと、家族のようなまとまりを持っています。これは何も言わされているわけではなく、本当にそうなのであります。もし疑問に思われたなら是非一度岡山空港に来てもらいたいと切に思います。

ところで、一見華やかに見える航空業界ですが、その業務はおおよそ 8 割方が「地味」な仕事の積み重ねであると先輩から教えられました。確かにそうです。真夏日の貨物室、雨の日のマーシャリング、臨時着陸便のハンドリングなど、貨物業務に携わっているとそれは痛切に感じます。しかしながらそういった輝かない仕事でも、それを欠かしては機体が宙に浮くことは無いのです。そういった事を教えて頂ける先輩に早くも出会えた私は幸せ者だと感じますし、恵まれた環境を与えてくださった人々には感謝の言葉が絶えません。

さて。そんな私ですが、遠い先には一つビジョンがあります。それは瀬戸大橋をまたいで岡山県と香川県を一つの観光圏とすることです。具体的には「オープンジョー」（羽田からパリへ出発し、フランクフルトから羽田へ帰るような、異なる区間を往復利用に見立てること）を普及させ、岡山県と香川県の両県で瀬戸大橋を利用して観光客の交換を行うことであります。

岡山もしくは香川で生活したことのある方はご存知かと思いますが、テレビは全ての民放が両県において放送されており、瀬戸大橋を渡る快速「マリンライナー」のおかげで県境をまたいだ通勤や通学が可能になっています。それならば観光客を交換することも可能なのではと考えています。一箇所に留まらず複数の観光地を巡る事は周遊型観光と呼ばれますが、鉄道を利用すれば一時間ほどで移動できる両県は、ひとつの観光圏として捉えるべきと私は考えます。最近、せとうち観光圏として海沿い・離島へと観光需要が集中していることは県境をまたいだ観光圏の設定に追い風な状況だと思います。その為にも香川県側から瀬戸内海へと訪れた観光客を岡山県側へ迎えること、そして岡山を訪れた観光客を海や橋を通じて香川県側へお送りすることが今の目標です。

晴れた日の早朝に空港からは、はるか遠く向こうに讃岐山脈が望めます。
朝靄がまるで海のように広がる日もあります。
そして夕刻、星空の下には誘導灯の灯りが真っ直ぐに浮かびます。
地味な仕事の積み重ねですが、朝夕に望むこの幽玄な光景が真の対価だとも思うのです。

逢坂 唯 / Osaka Tadashi
香川県立丸亀高等学校 → 神戸大学発達科学部人間環境学科
パート / バリトン（2012-2015）→ ベース（2016）、指揮法は父に師事。
現在は、両備ホールディングス-両備スカイサービスカンパニー 旅客一部に所属

昭和４５年神戸大学経営学部卒業
グリークラブベースＯＢ　徳重　光彦

市会議員４年間の経験を経て

１．地方選挙について

平成２３年４月統一地方選挙には長いサラリーマン生活（４３年間）から解放されたのと多くの友人たちからの支援もあり、又“みんなの党”という当時注目の政党支持にも恵まれて予想外に芦屋市会議員選挙に第２位（２２２８票獲得）で当選することが出来た。その後４年間議員生活を経て平成２７年４月には無所属で再度出馬するも７８７票に停まり想定内の落選でまさに基盤のない（支持政党のない）悲哀を心底味わった。その間、神大グリークラブの多くの現役諸君には多大なご支援とご苦労をおかけした。特に２月～４月上旬の厳寒のなか、芦屋市内のＪＲ，阪神、阪急の駅立ちとチラシ配り、膨大な名簿の作成など誠心誠意ご協力して頂いたことをこの場を借りて感謝申し上げたい。

２．議員の日常生活とは

議員生活では平成２３年４月以来４年間の本会議においては“市民が主役、市民が輝く、芦屋市政をよくするために”をモットーに合計１２回議場に立って多岐にわたる一般質問と行政宛の要望をしてきた、質問時間は１回４０分ではあったが事前調査と質問書の提出には何倍もの時間と労力を要した。また、そのやり取りの詳細内容についてはその都度市議会活動報告書を作成して印刷業者に依頼そして戸別訪問でのポストインや駅前朝立ちで手渡し配布という神経を使う緻密な広報活動を展開してきた。（発行部数は毎回２万枚以上、通算１６回に亘った）一方、日常の活動については極めて個人生活の自由度が少ないものである。昼夜を問わず近隣住民からの市の行政に対する要望や苦情をお聞きしてはその問題の解決に向け一定の方向を示す必要があるため土曜日、日曜日ものんびりできない。一方で議会会議中の発言内容についてはもちろんのこともう一歩外にでれば市民をはじめオンブズマンから一挙手一行動が常時監視されている。

使命感に基づいて行動するか、流れに身を任せ日々を“その場の対処”で過ごすか！

徳重の４年間は前者であったが今となれば道半ばと言わざるを得ない。

３．活動実績の主なもの

“芦屋市政に新しい息吹を！”の旗印のもと、徳重が市政課題の解決に尽力してきた主なもの少しだけ此処に取り上げさせていただいた。

①　ＪＲ打出村踏切の渋滞解消のために稲荷山線の早期開通に向けて

（ＪＲ西日本本社を訪問して何度も交渉するも全く前進せず未実現のまま現在に至る）

②　上宮川橋の段差解消と歩道部分拡幅工事

（平成２７年６月工事完了、ようやくベビーカーや車椅子が通れるようになった）

③　日本一高い市職員の給与の水準適正化（一定数削減するも基本的には前進してい

ない）

④　芦屋市議会の議員定数適正化　　（以前２２名⇒現在２１名に、１名削減実現）

⑤　市内３中学校の給食設備実現　（平成２７年から順次新規設備工事で実現しつつある）

要は現在の市政は行政側・議会側の優遇のためにあり、血税を収める市民へのサービスは後回しというのが実態であることは極めて残念である。

六甲男声合唱団に加入して

神戸大学グリークラブ先輩で芦屋市内の赤司さん、芦屋市内の加輪上団長のお勧めと相前後して同じく約５０年前グリークラブで同じ時期の吉永先輩、同期の前田君、特に後輩の永井君からの強い引きもあり入団させていただいてから早くも１年になろうとしている。毎年５月に開かれる（来年は西宮の県立文化芸術ホール）５大学ＯＢのアンコールの会は今年も大阪国際交流センターホールにて盛大理に終えることが出来た。今後の定期演奏会は“水のいのち”“珠玉の名曲”“マーラーのさすらう若人の歌”“智恵子抄巻末のうた六首”の予定と聞いている。毎週火曜日の夜の練習には多くの私より高齢の方が頑張ってご参加されているのを見るとさぼりにくいのが本心である。その他に私は、健康維持のため高校時代経験した硬式テニスを５０年余続けている。週に３～４回芦屋シーサイドテニスクラブ、日曜日には大阪舞洲シーサイドで旧くからのテニス仲間達と命懸けてコートの上で戦っている。いずれも老化防止と体調管理には足腰を鍛えるのがベストであると心得て続けている。また、高校時代の仲間たちと設立した芦屋六甲遊山会には今や１５名のメンバーとなった。芦屋の裏山からは大阪湾が一望できるため東お多福山、高座の滝、ロックガーデン、六甲縦走ルート６回ハイキング、摩耶山登山チームラン等すでに開催は３０回近くになろうとしている。また、生涯学習目的の芦屋川カレッジでは毎週水曜日（関西文化コース）の勉強会に参加している。これは芦屋市の教育委員会主催で今年は３３回目となるが今回ようやく入学することが出来た。（毎年応募多数のため抽選になるため）現在カレッジソング担当（ＣＤ操作が主な仕事）のためこの研修会も休みにくい立場でもある。他にも家庭内菜園、スポーツジムでのヨガ教室とたくさんの趣味を持っているが、いずれもお金のかからない何時でも誰でも楽しく参加できる共通点があり定年後の年金生活者にふさわしい趣味であると自負している。（この話の続きは次回以降に機会を与えていただければ幸甚である）

最後に（後輩の皆さんへ）

神戸大学グリークラブの諸君には今回の選挙から投票権が与えられるが、（１８歳以上）

現時点では立候補（被選挙権）の資格は２５歳にならないと得られない。

ほとんどの学生諸君は一流企業就職してやりがいのある生活を、あるいは公務員試験合格して安泰な生活を、あるいは大学院での幅広い知識を求めてさらにステップアッ

プを目指しておられることでしょう。従って、今のところ政治の世界に参加希望をされるかたは皆無かと存じますが、私は将来においても政治の世界に入ることはあまりおすすめ出来ない。

何故ならば、この世界は浮き沈みが多くて不安定すぎるからだ。先ほど述べた通りお金は使えるが自由が利かない。仮に世のため、人のためという高い志があっても自由な発言が出来にくい、同じ政党の議員同士でも今日の味方は明日の敵となることが多い、常に有権者の顔色を見ていかねばならない、そして何よりも老後の生活は保障されないのは大きなディメリットである（議員年金が廃止されたため）落選すればタダの人となる。当然ながら民間サラリーマンのような企業年金、厚生年金のない老後生活は不安定である。（幸いサラリーマン生活４３年間の私には企業年金、厚生年金、退職金の残りがあるが…）

以上がわずかな４年間ではあるが貴重な政治経験をさせていただいた徳重の感想である。

留学生事情と就労状況について

H28.5.28
Ｓ４７年卒Ｂ２０回生
永井哲郎

２０１５年１月から、三宮の日本経済大学神戸三宮キャンパスで、留学生の就職支援の仕事をしています。その仕事を通じて驚いたことや感じたことを紹介したいと思います。

さて、この大学は、経済学部のみの単科大学で、学生数は約５００名、ほとんどが中国からの留学生です。

ところが、２０１６年の新入生から様子が大きく変わりました。新入生１３０名のうちベトナムから７０名、中国は４０名、ネパールからは１０名、後は韓国、台湾、香港および日本です。何と半数以上はベトナムからの留学生が占め、一気に中国からの留学生の数を上回りました。

一体何が起こったのか、何が起こっているのか。

このすこしまえに、ベトナムからの語学留学生が非常に増えているとの話を聞いてはいました。今年の新入生により、その話が証明されたことになりました。もう少し詳しく事情を調べてみますと、

日本語学校に在学する留学生は、２０１２年かの２年間で２万人増加、４．５万人の学生数。出身国では中国とベトナムがほぼ同じ割合、次いでネパールと韓国、台湾という順です。

この日本語学校のベトナムからの留学生の絶対数の増加は、入学する大学の人数に影響することは容易に想像がつきます。

この絶対数の増加は、おそらくはベトナムやネパールでは、日本留学仲介業や日本留学エージェント業、つまりブローカーの存在が大きく影響して、これほどの人数になってきているのではと思われます。

実際、大学生・大学院生の増加率第１位はベトナムで、４年前に比べて３倍の１．１万人、ネパールの増加率は第２位で、２．５倍の４９００人というデータになっています。

入学してきた非漢字圏の彼等はひらがな・カタカナはもとより漢字の習得には、中国や韓国人よりも時間がかかる筈です。大学でも日本語の勉強は必須科目として授業を行っています。習字の時間もあり、漢字の習得にも力を入れています。

一方彼らの日本での就職希望は約３０％です。２０１３年の就労許可件数は１１６４７件で過去最高の件数ではありますが、外国からの留学生の７０％（約１万人）は帰国してしまっています。

日本で就職をするには留学ビザから就労ビザに切り替える必要がありますが、この就労ビ

ザの切り替えには大きな制約があります。

「技術・人文知識・国際業務」に関する仕事しかつくことができませんし、大学で学んだ知識を生かすことのできる業務かどうか、採用する会社からの雇用理由書の提出を求められることも多々あります。

世界が大きくグローバル化が進行している中で、留学生の日本での就職には大きくそして高い障壁が横たわっています。国内企業人材のグローバル化を阻害しているのではないかと思われます。

３０％しか日本での就職を希望していないのはアンケートからもうかがえます。

日本に住むことに魅力を感じている留学生は８３％もいるのに、日本で働くことに魅力を感じていない留学生が５１％もいます。なぜ魅力を感じていないのでしょうか。

経産省の「内なる国際化研究会」での調査によって、下記のような点が挙げられています。

１、就職にあたってキャリアパスの明示、昇格・昇給のスピードや役割、業務内容の明確化。日本型雇用からの変革が求められている

２、大企業では、年功制の撤廃や業務範囲の明確化が行われつつあるが、中堅中小企業ではその進み方が遅れている

３、新卒一括採用の仕組みや、中堅中小企業の情報の不足

４、在留資格や永住権取得の優遇や手続きの簡素化が求められている

５、外国人材が定着するためには、子供の教育環境の改善が必要

６、外国人が安心して暮らせるような、医療行政サービス、生活サービスの多言語対応が必要

こんなことを感じながら、日本経済大学で、留学生の就職相談に応じていますが、今は、来年卒業生の就活の真っ最中です。３月から始まった、合同説明会や就職博に参加していますが、留学生の採用の可否が掲載されていない会社案内が多くありここでもグローバル化の動きの遅れを感じているところです。

第６回定期演奏会盛会裡に終了！

東京六甲男声合唱団
Ｊ１６　竹内克広

去る５月 21 日(土)に東京六甲男声合唱団の第６回定期演奏会が杉並公会堂で開催され、日頃の練習成果を発揮して満員のお客様に大きな感動を与えて終えた。

演奏会の会場は前回に引き続き日フィルのホームグラウンドでもある杉並公会堂であったが、１３：３０開場予定のところ１時間前の１２：３０には最初のお客様が並ばれるなど、相変わらず根強いサポーターに感謝しつつも、折から最高気温２７℃の予想が出ている晴天の午後であるため、舞台のリハーサルが終了次第予定を早めて開場して座席でお待ちいただくことにした。

１４：００から始まった当日のプログラムは、Ⅰ.《日本の歌》　Ⅱ.《スピリチュアルズ》　Ⅲ.《グノー　第二ミサ曲　ト長調》　Ⅳ.《古典イタリア歌曲集　福永陽一郎編曲》の４ステージで、Ⅰ、Ⅱはアカペラ、Ⅲ、Ⅳは佐藤良子先生のピアノ伴奏付である。　第Ⅱステージの１８回生の竹本鉄三以外は、仲子誠一先生が指揮をされた。

第Ⅰステージは「からたちの花」(増田順平編曲)、「さくら」(信長貴富編曲)、「ふるさと」(室生犀星詞)、「眠りの誘い」(立原道造詞) の日本抒情歌曲集で演奏会最初のステージがアカペラという緊張感からか落ち着いた演奏ができなかったのが心残りで残念だった。

第Ⅱステージの《スピリチュアルズ》は、横山コレクションから「Soon a will be done」など５曲を選び演奏した。　なお、同コレクションは、東京六甲男声の創立者で指揮者でもあった、横山昭氏から昨年４月に逝去される直前に６６０曲以上もの楽譜の寄贈を受け、当方でＰＤＦ保存、原譜は神戸大学グリークラブに保管を依頼している。

演奏は、３人のソリストの好演と、現役時代から馴染んだ曲目だけに東京六甲らしい演奏を披露、会場も大いに盛り上がり、またそれに載せられて大熱演のステージになった。

休憩を挟んだ第Ⅲステージは、第１回定演でも採り上げた、グノー作曲「第二ミサ曲ト長調」より、Kyrie、Gloria、Credo、等６曲を演奏した。　フランスの作曲家らしい明るい曲調のミサ曲を東京六甲の特色である柔らかい響きで包み込み、会場の隅々にまで届けられた。　なお、途中トゥッティの中に４名のソリを挟みメリハリの効いた演奏に万雷の拍手。

第Ⅳステージは日本でもよく知られた、バロック以降のイタリア歌曲からアマリッリ、陽はガンジスに昇る、愛のよろこびなど福永陽一郎が男声合唱曲に編曲した５曲を演奏した。

耳に馴染んだ曲の連続で、体で拍子を取りながら聴いておられた方も多く、愉しんでいただけたと思われる。

盛大な手拍子に催促されたアンコールは、ヘンデルの「オンブラマイフ」と、すっかり東京六甲定演の最終曲目として定着した感のある、「ウイーン　我が夢の街」を１番は独語の歌詞で、そして２番を日本語で「神戸　我が夢の街」に読み替えて演奏。　「ウイーン」の代わりに「神戸」と懐かしい言葉が出てくると一斉に会場がざわめきだち、一緒に「神戸、神戸」と歌い出し、演奏が終わるとまさに割れんばかりの拍手がいつまでも鳴り止まず、指揮者とピアニストが何度も挨拶に出入りする始末。

８０代の女性からは、「楽しかったウイーンでの生活を思い出して、涙が止まらなかった」との感想をいただいた。一方、会場のお客様はやはり神戸に思い入れのある方が多かったらしく、舞台上の我々と同じく「神戸の街」への強い気持ちが琴線をいたく刺激したと思われる。

いずれにしても、会場一杯のお客様に感謝しながら楽しく歌い終えることができた幸せな演奏会であった。　次回のさらに向上した演奏を誓い合って終演となった。

横山さんのご逝去を悼む

昨年４月、定演に向けての合宿直前に、敬愛する大先輩横山昭さんが亡くなられた。定演では横山さんのお好きなスピリチュアルズを演奏する予定で、横山さんには久しぶりに合宿に参加戴いてスピリチュアルズのご指導をして戴くようお願いしており、ご本人も大変楽しみにして居られただけに誠に残念であった。

我々にとって横山さんはなんと言っても我が団を生み､育てて戴いた大恩人である。　横山さんは１９５１年１２月に神戸大グリー第４回定演で指揮者を務められ、六甲男声合唱団でも指揮者を経験された。その後お仕事の都合で上京されてからは、年２回の在京のグリーＯＢ会を指揮者としてリードしてこられた。２００２年６月のＯＢ会の際に、そろそろ我々も六甲男声合唱団のようなＯＢ合唱団を創って毎週歌おうじゃないかという機運が盛り上がり、６月３０日に横山さんを指揮者としてＯＢ合唱団が結団された。旗揚げは同年１２月１３日の東京凌霜クラブでのミニコンサートで、学生時代に歌った「柳河」「ヴォルガ」「ウボイ」など６曲を横山さんの指揮で演奏した。神戸大グリーの指揮者経験者は多数居られるが、神戸大グリーに由縁のある３つの合唱団すべてで指揮者を務められたのは後にも先にも横山さん唯一人である。

２００５年初頭、横山さんからそろそろ定期演奏会を開かないかとの提案があり定演に向けての準備が開始され、２００６年４月１５日第１回定期演奏会開催の運びとなった。副指揮者の静川さんがグノーのミサと日本の歌を、正指揮者の横山さんはロシア民謡とミュージカル名曲集を振られ好評を博した。定演終了後、横山さんより、年齢上の理由からこの定演を最後に指揮者を退きたいとの申し出があり、以後はプロの指揮者仲子誠一先生にご指導戴くこととなった。

指揮者を退かれた後も、横山さんには当団の顧問として演奏曲の選定や技術的なアドバイスで団の発展に大変なご助力を戴いてきた。２０１０年４月の第３回定演で演奏したプーランク作曲「八つのフランスの唄」は福永陽一郎氏が神戸大グリーのために編曲し、１９５２年に神戸大グリーにより初演されたものだが、残念ながらその後再演されずに埋もれたままになっていた。横山さんは編曲者の福永氏とは若い頃から深く交友を結んでおられ、この曲が幅広く再演されることを福永氏が期待しておられたことをご存じだったので、この曲が今後も幅広く再演されることを願って横山さんを中心として合唱団員数名により製本、出版を行い、関係団体にも配布した。このように、横山さんは東京六甲男声合唱団のみならず男声合唱界全体の繁栄のためにご尽力された方である。

合唱指揮者として幅広いご活躍をされた横山さんは美術史家としても大変ご活躍され、ご専門の日本美術史に関する論文では、「モネと日本趣味 その一側面 ～《ラ・ジャポネーズ》の衣装から見えるもの～ 」(平成２４年発行)や、「浮世絵師勝川春章の教養と機知～肉筆浮世絵『雪月花』に見る古典文学の受容～」(平成２６年発行)など、多数の論文を上梓されている。中でも「モネと日本趣味」の論文については、２０１４年６月に世田谷美術館

で開催された「ボストン美術館　華麗なるジャポニズム展」の解説書に取り上げられ、「・・・・・そして、モデルが羽織っている豪華な緋の打掛は、長らく歌舞伎の衣装と考えられてきたが、近年の研究により謡曲「紅葉狩」を主題とする図像をデザインとしたものではないかという説が日本美術史の研究者横山昭氏よって出されている」と記載されるように、日本美術史の専門家としても高く評価された方であった。

横山さんはご自宅に１７０曲を超えるスピリチュアルズの楽譜を保有しておられ、ご自身でも多くの曲を男声合唱に編曲されるほど、スピリチュアルズ研究の大家として福永陽一郎と並び称される存在でもある。先日の第６回定演で我々がスピリチュアルズを演奏するにあたり、選曲や曲解釈について横山さんのアドバイスを戴いた。鎌倉の横山邸にお伺いしてスピリチュアルズ楽譜を前にご指導を戴いた折に、横山さんが膨大な男声合唱楽譜を所有されていることを知り、改めて男声合唱に対するご造詣の深さに驚かされたが、横山さんも８５歳を過ぎたご高齢であり、このままだとこれらの楽譜もやがて役立たなくなる、なんとか後世に残せないものかとのご相談があった。男声合唱曲の楽譜は混声や女声合唱と比べても圧倒的に少なく、いつも選曲に悩む我々にとってはこれだけの多くの楽譜は将に宝の山であり、是非譲り受けたく、保存方法を検討することとなった。
とはいえ当団では保管スペースもなく、指揮者個人が譲り受けるのも勿体ないので、神戸大グリー顧問の阪上教授にご相談したところ、これらの楽譜の保存をご快諾戴いた。

横山さんの楽譜をお引き受けする体制は整ったが、その頃から横山さんのご体調が思わしくなく、横山さんにスピリチュアルズのご指導を戴くお約束を戴いていた昨年５月の合宿にも行けそうもないとの話もあり、横山さんの一日も早いご快復を祈っているなか、４月２３日に２つの段ボール箱に一杯の横山さんからの楽譜が到着した。早速御礼のメールを差し上げたが一向にそのご返事がなく心配していたところ、４月末に横山さんご逝去の知らせが届いた。あとで横山夫人にお伺いしたところ、横山さんはずっと楽譜のことが気掛かりだったようで、楽譜を送りだしてきっと肩の荷が下りたのでしょうとのことだった。

それから１年間の練習を経て、今年の５月２１日、第６回定期演奏会が無事に終了した。横山さんのご指導もあってスピリチュアルズは好評だったようである。達成感に浸りながらも、団の創設者横山昭さんと共に歌えなかったことに一抹の寂しさを感じた演奏会であった。

横山さんからお譲り戴いた６７０曲もの男声合唱曲の楽譜は分類整理してＵＳＢに格納して関係者が保有し、原譜は阪上先生のもとで大切に保管して戴いている。これらの楽譜が有効に活用されてゆくことを横山さんは天国で楽しみにして居られることであろう。我が団の大恩人横山昭様のご冥福を心からお祈りする。

東京六甲男声合唱団　竹本鉄三　記

グリークラブ関東ＯＢ会の報告

ＯＢ会当番幹事　静川靖敏(B11)

去る 7 月 2 日、平成 28 年度関東ＯＢ会が東京六甲クラブにて開催されました。ＯＢ会員 19 名に現役グリーメンバー2 名(ＯＢ担当中尾君・副指揮者藤井君)を加えた 21 名の出席を頂きました。当日急なご用やご自身・ご家族の健康問題などで 4 名の方々が急きょ欠席されたのは誠に残念でした。

東京六甲男声合唱団(以下ＴＲＭＣ)のメンバーがＯＢ会員の主要部分を占めていることから、ＯＢ会の開催はＴＲＭＣメンバーがパート別に輪番で当番幹事を務めて来ましたが、今回はバリトンメンバーが幹事を担当しました。

関東ＯＢ会は従来毎年 6 月の第一土曜日に開催することが通例になっていましたが、今年は、これまで 4 月中に開催されてきたＴＲＭＣの定期演奏会が演奏会場抽選の結果でこれまでより 1 カ月遅い 5 月 21 日開催となったので、ＯＢ会開催日との間隔を少し設けて、本ＯＢ会も例年より 1 カ月繰り下げ変則的に 7 月第一土曜日の開催となりました。

ＯＢ会では恒例によりＴＲＭＣの活動状況の報告(J16 竹内団長)、現役グリークラブの現況報告(中尾・藤井両君)に続き、毎週顔を合わせているＴＲＭＣメンバー以外の方々を中心にスピーチをお願いし、しばしＴＲＭＣ定期演奏会の講評や合唱談義にも花を咲かせながら旧交を温め、最後に愛唱歌の全員合唱をもって和気藹々のうちにお開きとなりました。

今回も会場として利用した東京六甲クラブ(前東京凌霜クラブ)は今年創立 50 周年を迎え、これを祝って各種行事が予定されていますが、我がグリークラブ関東ＯＢ会は、1965 年に永井正一氏(E3)の呼びかけで在京グリーＯＢ有志が集まったのを起点としており、東京六甲クラブよりも 1 年長い 51 年という歴史を重ねています。先輩が築いた土台に順次若い世代のエネルギーが積み上がってきた財産でもあります。今回の出席メンバー中の最若手は E21 伊藤正昭氏(65 歳)であり、それ以降の若手・現役サラリーマンの参加が見られないのはさびしい限りです。ＯＢ会への全体の出席率をもう少し高めること、特に若手の方々の参加が強く望まれるところです。

訃報

下記の方々が逝去されました。
生前は、グリークラブへ多大なるご愛顧を頂き誠にありがとうございました。
謹んで、皆様のご冥福を心からお祈り申し上げます。

学 1	横山　修	没　2015 年 12 月 5 日
学 7	近藤　正己	没　2016 年 4 月 23 日
学 19	柴本　芳郎	没　2015 年 7 月
学 23	横山　昭	没　2015 年 4 月
学 23	森　英世	没　2016 年 1 月 17 日
学 23	岡島　耕市	没
E2	井上　耕一	没　2016 年 1 月 1 日
E3	中田　正雄	没　2015 年 9 月
E11	森本　晃一	没　2015 年
B12	林　祥友	没　2015 年 1 月
B28	関根　浩	没　2015 年 9 月 22 日
80J	樋上　昌彦	没　2015 年

＜略記号＞
学…神戸商業大学及び神戸経済大学
E…経済学部
B…経営学部
J…法学部
（例）
E10…経済学部 10 回生
82B…経営学部 82 年度入学

現役活動報告

昨年度におきましても OB の皆様方による多大なるご支援、ご指導を賜りまして誠にありがとうございました。部員一同、心より感謝申し上げます。

第 67 回定期演奏会

2015 年 12 月 13 日に我が神戸大学グリークラブは、第 67 回定期演奏会を神戸市立灘区民ホール(マリーホール)にて無事開催することが出来ましたことをこの場でご報告致します。今回の定期演奏会では第 1 ステージで客演として、当団の技術顧問であります阪上公博先生を指揮に、前田裕佳先生をピアノ伴奏にお迎えして男声合唱組曲「明日へ続く道」（作詞:星野富弘、作曲:千原英喜）を演奏させて頂きました。また、第 2 ステージでは第 1 ステージで客演のピアノ伴奏をして下さいました前田裕佳先生に編曲して頂いた中島みゆきの「わかれうた」「糸」「銀の龍の背に乗って」「麦の唄」の 4 曲を「中島みゆきセレクション」として当団の副指揮者でありました沖出賢祐の指揮で演奏させて頂きました。そして、第 3 ステージでは「Song of Departure」（作詞作曲:菅野よう子）を正指揮者でありました逢坂唯の指揮で演奏させて頂き、計 3 ステージを無事に歌いきることが出来ました。

当団にとっては、挑戦的な曲もあったことにより練習で苦労しましたが、本番では練習の成果を発揮することが出来た為、多くの方々からご好評の声を頂き、私達にとっても満足のいく演奏会となりました。

前期演奏会

2016年6月25日に神戸大学出光佐三記念六甲台講堂のほうで神戸大学グリークラブ、サマーコンサートを無事開催させて頂くことが出来ました。第1ステージでは愛唱曲集ステージとして、当団の孫指揮者にあたります2回生の古川諒の指揮の下でグリーになじみ深い愛唱曲を演奏させて頂きました。第2ステージでは、副指揮者の藤井達也の指揮で無伴奏男声合唱のための「優しき歌」（作詞:立原道造、作曲:藤嶋美穂）を演奏させて頂きました。

今年度は、例年行っていたジョイントコンサートを行わずグリークラブのみで前期の演奏会を行わせて頂きました。前例がないため、分からないことも多く、また4回生の方々が就職活動の関係で忙しく、本番に乗れない人が出るといったことが起こり、大変な面もありましたが、多くのOB様方にお越し頂き無事に演奏会を終えることが出来ました。

六甲台講堂は、以前までグリークラブの練習をしていた我がクラブと縁のある場所ということですが、国の登録有形文化財に指定されたことから練習場所として使うことが出来なくなりました。そのため、現役の私達のほとんどが中に入ったことがなく、今回改めてグリークラブの歴史を感じることが出来た演奏会となりました。

今年度は、新たに6名の新入生を迎え計29名で活動してきました。更に、今まで報告した演奏会以外にも、2016年3月13日に行われたPlay From Kobeの街頭コンサートや6月12日に開催された兵庫県合唱祭にも参加させて頂きました。更には、阪急六甲駅の近くにある雲内教会の方でも、7月9日にサマーコンサートを行いました。また、今後は11月3日に開催されるバッカスフェスタの方にも参加させて頂く予定です。

現在は、12月23日(金)に第68回神戸大学グリークラブ定期演奏会を灘区民ホール（マリーホール）開場13：30、開演14:00にて開催する予定でございます。この定期演奏会に向けて、部員一同練習に励んでいます。これからもOBの皆様方には、ご指導、御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

2015 年度　会計報告

2015 年　第 67 回定期演奏会特別会計

収入		項目	金額	備考
	部内所得	2015 年一般会計入金	468,112	
		レセプション費用徴収	93,000	
	その他所	広告費	20,000	
	収入総計		581,112	

支出		項目	金額	備考
	演奏会費	ホール使用料	198,940	設備・人件・調律費含む
		レセプション費用	187,000	
		先生方御礼金	80,000	
		印刷費	71,550	
		楽譜及び資料代金	36,733	
		雑費	6,889	
	支出総計		581,112	

2015 年　一般会計報告

一般収入		項目	14 年度決算	15 年度見積	15 年度決算	16 年度見積
	引継	前年度繰越	89,346	270,453	270,453	486,019
	所得	部費	1,030,000	1,100,000	815,000	600,000
		部費滞納回収金	50,000	0	0	0
		OB 寄付金	520,000	500,000	666,000	600,000
		育友会助成金	118,000	120,000	70,800	100,000
		行事等余剰金	14,951	30,000	99,316	30,000
		行事参加礼金	18,000	0	0	0
	総計		1,840,297	2,020,453	1,921,569	1,816,019

一般支出			14 年度決算	15 年度見積	15 年度決算	16 年度見積
	費用	渉外関連費	79,857	80,000	132,358	100,000
		OB 担当関連費	192,516	200,000	209,792	200,000
		渉内関連費	28,311	30,000	45,459	40,000
		練習場使用料	48,850	75,000	21,950	30,000
		会計関連費	0	0	4,148	3,000
		新入生関連費	59,850	75,000	60,939	60,000
		ボイストレーナー御礼	120,000	120,000	82,378	100,000
		合唱祭参加費	70,500	30,000	参加せず	60,000
		指揮師事	25,000	20,000	10,000	20,000
		当年ｼﾞｮｲﾝﾄｺﾝｻｰﾄ	312,450	350,000	395,414	0
		当年定期演奏会	558,000	550,000	468,112	500,000
		次年ホール予約金	67,000	200,000	次年会計から	次年会計から
		サマーコンサート	7,510	8,000	5,000	150,000
		次年度繰越金	270,453	282,453	486,019	553,019
	総計		1,840,297	2,020,453	1,921,569	1,816,019

今年度会計を以上の通りご報告申し上げます　　会計　　平野太一

監査の結果、会計に問題ないことを確認いたしました　　会計監査　　江崎祐介

寄付金の振込先

会報をご一覧頂き誠にありがとうございます。会報を発行し始めてから今年で３年目となり、毎年より良くしようと試行錯誤して作成しております。今後も、より良い会報を作成するために努力して参りますが、部員だけでは限界があると感じますので OB 様方から何か御意見等がございましたら葉書か OB 担当宛にメール等でご連絡頂けると大変嬉しく思います。また、近年、現役活動をより活発にしつつも経費削減を心掛けております。しかし、まだまだ努力不足のために学校の助成金や部費だけでは活動費がまかなえていません。本年も、どうか OB の皆様方に寄付金のご協力頂けますようお願い申し上げます。

神戸大学グリークラブ口座
三井住友銀行六甲支店
普通預金 口座番号 3093489
神戸大学グリークラブ

コンピューターで振り込みをされる場合は口座名を半角カタカナで「 ｼﾝﾀﾞｲｸﾞﾘｰ 」 として下さい。なお、「 ｰ 」は長音記号ではなくハイフンなのでご注意下さい。

住所変更,お問い合わせについて

お手数ですが、住所変更された場合はハガキまたは電子メールで「回生、御芳名、連絡先、現住所」をお知らせ下さい。なお、電子メールで行われる場合は、件名に「神戸大 学グリークラブ 住所変更届け」とお書き下さい。またお問い合わせに関しましては下記宛 先もしくはご用件ごとに各役職のアドレスまでご連絡下さい。宜しくお願い致します。

ハガキ

宛先　〒657-0013 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学グリークラブ行

電子メール

ob.kobeunivglee@gmail.com	OB チーム
stage.kobeunivglee@gmail.com	ステージマネージャーチーム
liaison.kobeunivglee@gmail.com	渉外チーム
miscellaneous.kobeunivglee@gmail.com	渉内チーム
treasurer.kobeunivglee@gmail.com	会計チーム
publisher.kobeunivglee@gmail.com	編集チーム
web.kobeunivglee@gmail.com	WEB チーム
kobe_univ_glee@yahoo.co.jp	部長